

○ハイタカ2号

日付	曜日	BW(g)	餌の種類	給餌量	残	食事量	経過	備考
11月16日	月	192	-	-	-	-	<p>(経緯等) 13:30頃に新旭のハト小屋にタカが入ったと連絡あり。 写真を見たところハイタカであったが、踵を地面についており傷病鳥である可能性があったため回収に行く。 18:30頃に現地に到着、その場で確認したところかなりの削瘦状態であった。竜骨の状態からおそらくフルウエイトの60%近くであり餓死寸前といったところではないか。 おそらくは雌の若鳥であり、この季節は大陸もしくは日本の北から越冬のため渡ってきた個体の可能性がある。今年はハイタカの落鳥が多いよう(バンダール情報) (状態) ・目ははっきりしてり、元気はありそう。 ・飛翔はできる。翼等のケガは無さそう。 ・半日間、カゴに入っていたため尾羽の一部破損と、初列の乱れがみられる。 ・極度の削瘦 ・左の第三指が極端に曲がっている。握力もない。他の指は握力も十分ある。 (処置) ・強制給仕(フォーミュラ) ・保温</p>	 
11月17-20日	火 金	-	鶏肉	-	-	-	<p>あさひ動物病院に入院 ・17日は強制給仕 ・18日からは、鳥のササミ、ハート、レバーを与える。</p>	
11月21日	土	-	ウズラ♀ 鶏肉	45	0.0	45.0	<p>リハビリ施設へ移動 ・豚肉またはウズラの骨、羽毛のない部分を与える。 ・かなりの削瘦であるため、少しずつ回数を分けて与えることとする。(停滞等に配慮) ・尾羽カバーがファンで汚れ、敗れているため尾羽の先が少し破損。 ・16g強制給仕 ・25g、20gの鳥肉、ウズラを与える。 ・夜間のみ保温</p>	
11月22日	日	-	豚肉	65	0.0	65.0	<p>・25g、20g、20gの3回与える。 ・夜間のみ保温</p>	
11月23日	月	-	豚肉	60	0.0	60.0	<p>・20g、20g、20gの3回与える。 ・夜間のみ保温</p>	







日付	曜日	BW(g)	餌の種類	給餌量	残	食事量	経過	備考
11月24日	火	240	豚肉	66	0.0	66.0	・体重は増えたがまだ削瘦している。 ・25g、20g、21gの3回与える。 ・夜間のみ保温	
11月25日	水	-	豚肉	63	0.0	63.0	・23g、30g、10gの3回与える。	
11月26日	木	-	豚肉	81	0.0	81.0	・7:20に40g、19:00に41g	
11月27日	金	280	豚肉	83	0.0	83.0	・竜骨を触った感じは80-90%の間ぐらい。 ・7:30に40g、12:30に43gの2回豚肉を与える。	
11月28日	土	-	豚肉	83	0.0	83.0	・2回餌43g、40g	
11月29日	日	320	ウズラ♀	80	0.0	80.0	・2回餌43g、37gウズラ(骨だけをきれいに残す)	
11月30日	月	-	ウズラ♀ 豚肉	79	0.0	79.0	・2回餌39g(ウズラ)、40g(豚肉)	
12月1日	火	-	ハト 豚肉	77	0.0	77.0	・2回餌54g(ハト)、23g(ブタ肉)	
12月2日	水	340	豚肉 ウズラ♀	83	17.0	66.0	・2回餌56g(ブタ肉)、ウズラ27g-残17g=10g(PM10:00) ・朝にペリットを確認。 ・体重は高いが、前の日の豚肉は22:00ぐらいに与えてるので空腹時より少し高いことが予測される。キールの感じからフルウェイトには少し余力がありそう。	
12月3日	木	348	ハト	67	0.0	67.0	ここをフルウェイトとすると保護時は55.17%でほぼ餓死寸前と言える。 しかし、すこしキールに余力あり。 100%の定義を考え直す必要があるか。	
12月4日	金	-	ウズラ♀	80	0.0	80.0	・骨はきれいに残す	
12月5日	土	352	ハト	69	0.0	69.0	・11時に体重を測定(空腹時と言える) ・骨はきれいに残す	

日付	曜日	BW(g)	餌の種類	給餌量	残	食事量	経過	備考
12月6日	日	-	-	0	0.0	0.0	<ul style="list-style-type: none"> 朝のエサ抜き 18:00頃にノスリの心臓と肝臓を与えるがほとんど食さず。 第三趾の付け根関節付近に骨折あり(レントゲン)。 仮骨形成もなし。固定されずに動かし続けていたためだろう。 第四趾にかかる状態でプルプルしているので、第二趾とテーピングで固定。2～3週間経過観察することとする。 放鳥は早くても、12月下旬となる。 	
12月7日	月	-	ウズラ♀	98	79.0	19.0	・98g(ウズラ)	
12月8日	火	-	ウズラ♀	79	58.5	20.5	・残55g ペリットと骨3.5g	
12月9日	水	-	ウズラ♀	56	22.7	33.3	・残肉22g、骨0.7g	
12月10日	木	356	ハト	52	6.7	45.3	・残は骨と肉、ペリットを含み6.7g 肉の残はモモから下	ハトは安楽死したものをエサ用にといた だいたものだった
12月11日	金	-	ハト	57	57.0	0.0	・ハト57g(残11g)	
12月12日	土	-	ウズラ♀	48	48.0	0.0	・全く食さず	
12月13日	日	-	ウズラ♀	48	48.0	0.0	<ul style="list-style-type: none"> 全く食さず 根本の骨折を固定するため、1円玉を足裏にあてて固定する。 指先は動いているため、神経は生きていることがわかる。 	
12月14日	月	-	ウズラ♀	47	47.0	0.0	<ul style="list-style-type: none"> 先2日間まったく口を付けていないので、ファルコンブロックに置いておく 全く食さず。 足の固定をしなおす。 	

日付	曜日	BW(g)	餌の種類	給餌量	残	食事量	経過	備考
12月15日	火	330	ウズラ♀ 豚肉	57	57.0	0.0	・ウズラ、豚肉どちらも食さず ・鳥のリカバリー(10ml)を強制給仕 ・しっかり飛ぶ、表情も問題なし、竜骨は少し痩せた感じがする。 そのうにも溜まってないし、フンも出てるため停滞ではなさそう。	
12月16日	水	-	豚肉	20	20.0	0.0	・食さず。強制給仕10ml	
12月17日	木	-	ウズラ♀	48	48.0	0.0	・食さず。	
12月18日	金	324	ウズラ♂	40	40.0	0.0	・朝、強制給餌10ml ・全く食べず ・竜骨を触ると痩せてきているのがよくわかる。 ・飛ぶのはしっかりと飛んでいる。	
12月19日	土	-	ウズラ♂	40	4.5	35.5	・朝、強制給餌11ml ・すべて食す。残は骨のみ。 強制給餌で胃腸が活発になったか、空腹になったか。食欲不振の原因は足の固定による違和感またはストレスか。	⇒食欲不振は先に与えていた安楽死のハトが原因であったことが後日判明
12月20日	日	-	ウズラ♂	40	1.5	38.5	・すべて食す。残は骨のみ。	
12月21日	月	-	ウズラ♂	43	0.0	43.0	・すべて食べる。残の骨の重さを計測せず。	
12月22日	火	-	ウズラ♂	45	4.1	40.9	・残は骨のみ	
12月23日	水	333	ウズラ♂	43	5.5	37.5	・残は骨と太もも	
12月24日	木	-	ウズラ♂	45	18.7	26.3	・残は肉と骨。 ・部屋の中を飛ばすが、数回追いかけると疲れがよく見える。 保護をしてから35日。ラインによるフライトもしくは部屋の中で追いかけてトレーニングは必要だろう。	
12月25日	金	-	ウズラ♂	58	50.1	7.9	・残はものの肉と骨。 ・レントゲンで指に仮骨形成を確認。指も固定をはずした後、少しすると動いているのを確認できた。軽い固定に変更し、観察を継続する。	

日付	曜日	BW(g)	餌の種類	給餌量	残	食事量	経過	備考
12月26日	土	-	ウズラ♂	50	0.0	50.0	<ul style="list-style-type: none"> ・食べず。 ・羽は尾羽2本(⑥⑥)、左翼初列2本(⑨⑧)の先が少し破損している。 ・カラーリング(0.8g)を装着する。 	カラーリングはABS樹脂、厚さ1.7mm程。絆創膏型に切って、ヤスリをかけて使用。 
								
12月27日	日	-	ウズラ♂	48	16.6	31.4	<ul style="list-style-type: none"> ・残はももの肉と骨。 ・カラーリング下面があたるところが出血している。 	
12月28日	月	-	ウズラ♂	40	6.6	33.4	<ul style="list-style-type: none"> ・残は骨と少しの肉。 ・出血はしていない。 	バンダーUが調べた結果、このハイタカは幼鳥(今年生まれ)の♀の個体と判明。
12月29日	火	-	ウズラ♂	39	7.0	32.0	<ul style="list-style-type: none"> ・出血なし。 ・残は骨と少しの肉。 	
12月30日	水	-	ハト	64	8.0	56.0	<ul style="list-style-type: none"> ・残は骨と少しの肉。 ・7:00に給餌。20:00に確認。踵を付いて座っている。触っても暴れない。眼はしっかりしている。 ・ハトの提供者に問い合わせたところ、安楽死の薬(ペントバルビターゼ)が残っている可能性がある。ハトはハイタカとほとんど同じ体重で、確実に死ぬ量を注射しているとのこと。拮抗薬はなし。しかし、即効性のある薬なので、後は持ち直してくれると思う。食べさせることで代謝を上げる方が良い。代謝が落ちているので酸素テントに入れる方が良い。 ・21:00頃確認。先ほどよりも嗜眠傾向にあるので、酸素テントに入れる。補液(6ml)も行う。 	
12月31日	木	-	強制給餌	10	0.0	10.0	<ul style="list-style-type: none"> ・補液(5ml)と強制給餌(ベジタブルサポート(肝臓に負荷がかかっているので)5ml×2回) ・暴れ始めている。 	

日付	曜日	BW(g)	餌の種類	給餌量	残	食事量	経過	備考
1月1日	金	-	ウズラ♂	40	4.0	36.0	・しっかり食べてる。残は骨のみ	
1月2日	土	-	ウズラ♂	45	14.2	30.8	・残は骨と肉。しっかりと飛んでいる。 ・指も少し方向が曲がっているが握れている。 ・尾羽に筋が入ったりして破損の傾向のあるものが多い。 ・早く放鳥すべきである。放鳥のときには補強しておくことも考えるべきだろう。 ・カラーリングについてもあれから出血はないものの、狩猟の邪魔になることを考えて再考すべき。しかし、他の素材で作っても、同じ大きさのものになると樹脂の0.8gが一番軽い。	
1月3日	日	338	ウズラ♂	52	19.0	33.0	・残は骨と肉。 ・しっかり飛んでいる。	
1月4日	月	-	ウズラ♂	40	23.0	17.0	・薄い樹脂でリング作成が可能そうである。早急に取り寄せを行い付け替えたい。	
1月5日	火	-	ウズラ♂	44	6.6	37.4	・残は骨と砂囊のみ。 ・指の軽い固定をはずす。 ・リングについては県と協議の結果問題ないとのこと。 新しいカラーリングが届く。かなり薄い。触った感じは強度も問題ないものと思われる。	
1月6日	水	-	ウズラ♂	47	1.7	45.3	・残は小さい骨のみ。	
1月7日	木	-	ウズラ♂	51	14.6	36.4	・砂肝、骨、肉が残っている。 ・屋だけは、屋外の4mケージに置き、気温だけには慣らしておくようにする。 ・指はしっかりと握れている。(動画あり) ・翼、特に左翼初列風切の5～9番の先2～4cmが折れているのを発見。右翼も筋が入っているものがあり今後が不安。	https://youtu.be/vF1t2B0gTVE 
1月8日	金	-	ウズラ♂	40	7.0	33.0	・昨日から屋外に置いたが餌も食べ、体調も問題なさそうなので継続する。 霧吹きもし、羽づくろいをさせる。	
1月9日	土	-	ウズラ♂	42	5.4	36.6	・残は骨と砂囊のみ。 ・羽の破損があるもののフライトはできている。 ・気温が外気温に近い部屋に置き、霧吹きをする。	

日付	曜日	BW(g)	餌の種類	給餌量	残	食事量	経過	備考	
1月10日	日	-	ウズラ♂	52	8.0	44.0	<ul style="list-style-type: none"> ・残は骨と砂囊のみ。 ・羽の破損が大きい。屋外に置いてから夜の暗い部屋でも音で暴れるようになったためか。 ・寒の戻りもあり放鳥に不安はある。 しかし、長期の飼育は、渡りに乗れないことや、狩猟の感覚を鈍らせること、飼育中の事故等を考えると放鳥が望ましい意見が多い。		
1月11日	月	-	ウズラ♂	52	17.4	34.6	<ul style="list-style-type: none"> ・放鳥前の体重は367g $367g - 34.6g = 332.4g$ 体重測定の時間が13:00なのでいつも測定する早朝よりも少し代謝が進んでいるため、340gほどか。フルウエイトの時に比べて少し低いが、秋の終わりに比べ体重が若干下がることは当然と言えるか。 どちらにしても問題のあるウエイトではない。 ・カラーリング(0.4g)と環境省リング(0.7g)を装着。 ・14:56に放鳥(動画あり)。 200mほど飛んで竹藪の中に入る。 その後数回出てくるが、対岸に行きわからなくなる。 羽の破損は心配があるものの飛翔自体に問題はないと思われる。 		
							 https://youtu.be/4BioDzrxMEk		
									

○考察

- ・ハイタカは小回りが利くため、狭い部屋であってもトレーニングが可能と言える。おそらく3m×3mでも旋回が可能。特に角まで行って止まるところがなくても、そのまま方向転換し帰ってくる能力は驚くものがある。
- ・羽の破損はあったものの放鳥時のフライトでは影響があったようには見えない。今後の放鳥の参考になる記録と言える。
- ・エサは、骨をきれいに残しながら食べる。食事量は、与えたエサにどれだけ骨が含まれているかに影響されるところが大きい。与えた量から残量を引いて食事量の管理をすべきだ
- ・削瘦状態のときに体重を上げるためには、かなりの食事量が必要であることが分かる。体重の何%で十分などと決めつけず、数字による体重管理が大切と言える。
- ・削瘦が改善されたあとは、ある一定のエサの量で体重が維持できる。気温や季節にもよるがハイタカの場合は、体重の11%程度か。
- ・安楽死した動物をエサとする場合は、どのようにして安楽死したかが重要である。注射によるものは一番危険。
- ・カラーリングは環境省リングよりも軽いにもかかわらず、分厚いものでは傷ができた。今後はできるだけ薄いものを使用すべきだろう。
- ・ハイタカの羽の管理をするためには、繋ぐか全面の上一部を開けてエサやりができる構造のケージが良いだろう。しかし、掃除等のことを考えると、繋ぐことが一番きれいに管理できると思われる。また、初列と尾羽を束ねて保定する場合は、必ず翼角も開かないよう固定すべきである。